

## 「杉谷農村舞台復活に込める想い」

日吉神社氏子 陶久敏郎

私は、子供の頃今ある農村舞台が何をする所か知らなかったし、関心もなかった。と言うのも、毎年の秋祭りにこの舞台を使って余興をしたことが無かったからだ。当時の記憶と言えば、氏神さんの大きな木に巣を作っていたムササビを、休日と言わず近所の友達と追い掛け回したこと位である。

その後、私が四十九歳になる今日までに、卓球大会とカラオケ大会、旅の芸能一座の公演があっただけで、戦前に行われていた人形浄瑠璃や歌舞伎の公演は、戦後になつてまた一度も行われていない。日吉神社の農村舞台は、長い間氏神さんの木立のように、静かに何も言わず時を刻んできたのだ。

そればかりか、秋祭り自体も活気が無くなった。勤める人が増えたからと、祭日を土・日に変更したけれど、過疎化や少子高齢化の波には勝てなかった。祭りに集まって来るのは、役目が当番の人が中心で、お神輿も高齢化で担ぎ手が揃わず、今年から台車に乗せるようになってしまった。日本の歴史上、最も経済的に豊かな時代が創り出した、農村文化の貧困がここにある。

ふとしたきっかけで、私は数年前から隣の新野町岡花・西光寺に約二百年も続いている人形浄瑠璃の一座、中村園太夫座の座員になっている。下手くそながらも人形浄瑠璃に関わっている内に、かつて人形浄瑠璃は氏神さんにあるような農村舞台で盛んに公演され、村の人々は楽しみにしていた歴史があることを知っ



た。それからと言うものの、人形浄瑠璃で杉谷農村舞台を復活できないものかと考えるようになった。日増しにその想いは強くなり、ついに今年の秋祭りの清掃日に、来年の秋祭りに人形浄瑠璃の公演がしたいと氏子の皆さんにお願いをしたら、それは良いことだと内諾してくれた。この先、山あり谷ありと思うが何とか復活したい。

願わくば来年の公演は、村の人は勿論、この村を出て暮らしている人たちや近隣の村々の人たちにも観てもらいたい。そして、八百年以上もの間この村で暮らしてきたご先祖や、農村文化を守り続けてきた先輩諸氏にも、感謝の気持ちを込めて是非観てもらいたいと思う。



阿波農村舞台の会ができて一年半が過ぎました。この間多くの人と出会い、そしてお世話になってきました。会員のみなさんと農村舞台を大切に守ってきた地域の方々も

ちろん、人形浄瑠璃や音楽、舞踊、演劇など様々な舞台芸術に取り組む方、音響や照明、アナウンスなどその舞台を支える方、デザイナーやコピーライター、写真家、建築家、画家、マスコミやタウン誌の編集者、大学等の研究者など。劇団樹間舎の高津住男氏と奥様の真屋順子さん、新内浄瑠璃の人間国宝・鶴賀若狭掾師匠ともお近づきになることができました。今回原稿をお寄せいただいた大阪の原田さん率いる塾塾のみなさんとのご縁も大切にしていきたいと思っています。こうしたご縁の延長で、職場の同僚の結婚披露宴やアフリカの民族打楽器ジャンベを叩く二人の結婚を祝う会では、青年座の寿二人三番叟を紹介する口上をやる羽目にもなりました。

農村舞台を通じて本場に住む世界が広がりました。文化というものは、人と人の和をつくり、その地域の魅力を生み出し、地域の活力をもたらすものだと思えています。

▼事務局担当  
佐藤憲治

## 阿波農村舞台通信

平成16年 No.5 (冬号) 2004年12月31日発行

## 阿波農村舞台の会

〒770-0803 徳島市上吉野町3-22-2 佐藤方  
Tel/Fax.088-655-6457 mail:info@nousonbutai.com